

あびこ駅(地下鉄御堂筋線)① 幻の依網池跡から大和川を歩く



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.042

地下鉄あびこ駅

①大依羅神社

大依羅神社は古代豪族・依羅吾彦の祖神・建豊波豆羅和氣王と、住吉三神をご祭神としています。式内社で、古くは朝廷から住吉大社に次ぐ扱いを受けていた神社ですが、南北朝時代に依羅氏が滅び、神社も衰退していきました。かつて神社の前には「依網池」と呼ばれる池があり、古代朝廷直轄の耕作地「屯倉」が置かれていたという記録もあります。あびこ観音や大依羅神社の由来を鑑みると、依羅氏は、百済や朝廷などに深く関係した氏族と考えられます。

②龍神井

伝説によれば、依網池に住む龍神が美女に化身して、依網池に沈む鍬を取ってほしいと、通りかかった農夫に頼みこんだといわれています。また、そのお礼として旱魃の際には、この井戸の水を神様に供え、雨を降らすと約束したといわれています。

③依網池碑

崇神朝の記録に「依網池を作る」とあります。しかし、仁徳朝説、



推古朝説もあり、その起源は不明ですが、日本でも1、2の歴史の長さを誇る最古級の人工池です。かつては10万坪の大きさの灌漑用池でしたが、江戸時代、大和川の付け替え工事によって、池の3分の2が大和川となりました。明治・大正・昭和の時代には、まだ池の面影は見られましたが、戦後の市街地化によって公園、学校に変わり、現在はまったく見られなくなり、幻の池となりました。

④大和川

大和川は昔、柏原付近からいくつかの川に分かれて北流し、そのために現在の東大阪市界隈はたびたび洪水の被害に見舞われました。そこで明暦3年(1657)、今米村の庄屋・中甚兵衛が大和川付け替えを幕府に嘆願。幕府は大和川の付け替えではなくて堤の改修工事で解決を図りましたが、工事終了後の元禄14年(1701)に大水害が勃発。これは抜本的な治水が必要であるということとで、元禄16年(1703)、ついに

大和川の付け替え工事が決定。翌年に工事を着工して、現在の大和川となりました。

⑤あびこ観音

正式には吾彦山大聖観音寺といわれています。寺伝によれば、わが国に百済から小さな観音像が贈られ、それを古代豪族・依羅吾彦が奉り、その後、聖徳太子が当地に寺院を建立したことが縁起といわれています。ご本尊の聖観音像は戦乱で所在が転々として江戸の赤羽円明院に移っていましたが、寛永17年(1640)に盛長上人が幕府に帰山することを願い出て、この地に戻りました。毎年2月に行われる節分厄除大法会は盛大で、大勢の信者で境内が埋め尽くされます。



地下鉄あびこ駅

